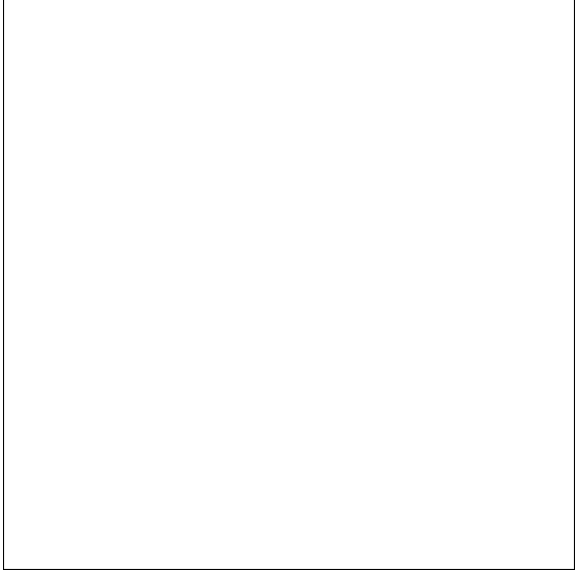




(utan bilder)

✎ Basilio Gimo, David Ker
👤 Carol Liddiment
📧 Sayuri Hayashi
💬 japanska
📊 nivå 2



カバに毛かない訳



Sagor för barn på svenska

berattelser.se

カバに毛かない訳

Skreven av: Basilio Gimo, David Ker
Illustrerad av: Carol Liddiment
Översatt av: Sayuri Hayashi

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons

[Erkännande 3.0 Internasjonal Licens.](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv)

<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv>



ある日、うさぎが川のほとりを歩いて
いました。

カバもそこで散歩をしながら、すてきな緑の草を食べていました。



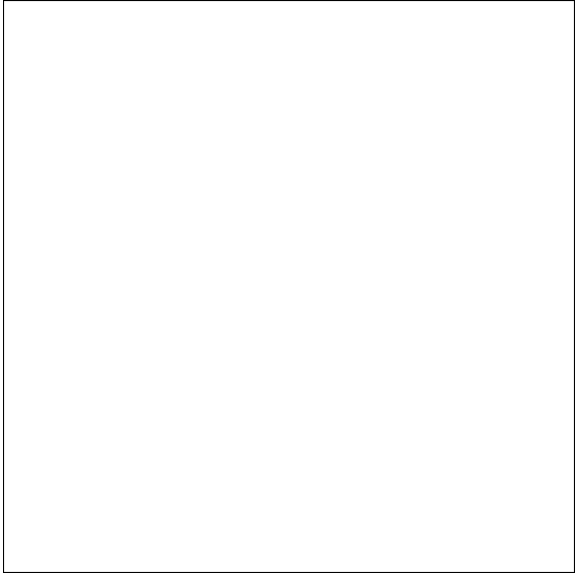


カバは、うさぎがそこにいるとは知らず、あやまってうさぎの足を踏んでしまいました。うさぎはカバを見つめてそして叫びました。「おいカバ、わたしの足を踏んでいるのが分からないのか？」

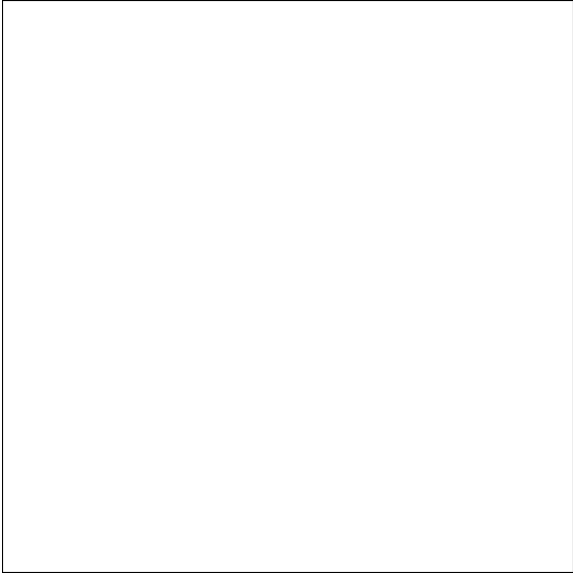


うさぎは、カバの毛が燃やされて、嬉しくなりました。そして、カバはこの日を機に火を恐れて、水から離れたところには二度と行かなくなりました。

カバは、うさぎに謝りました。「ごめんよ。見えなかったんだ。どうか許してよ」けれどもうさぎは聞き入れず、カバに向かって叫びました。「わざとやったぞ！今に分かるさ。ただじゃすまないぞ！」



カバは泣き出し、水を求めて走りまわった。カバの毛は全部火によって燃やされてなくなりました。カバは泣き続けました。「わたしの毛が火で燃えた！わたしの毛はすっかりなくなっちゃった。わたしの美しい毛が！」





うさぎは火を探しに行き、こう言いました。「行け! 草を食べるために水から出てきた時、カバを燃やしてしまえ。やつは、わたしの足を踏んだんだ!」火は「お安い御用です。友達のうさぎさん。お望み通りにやりますよ」と答えました。



その後、カバが川から遠く離れた場所で、草を食べていると「ビュン!」火がつき炎が上がりました。炎はカバの毛を燃やし始めました。